

群馬県立しらがね特別支援学校 学校評価一覧表② (令和3年度版)

(様式2)

羅 針 盤		グランド デザインの具体 的項目 ----- 分掌等	達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	次 年 度 の 課 題
評 価 対 象	評 価 項 目		①	②	総 合		
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①保護者の80%以上が、たよりや学校のホームページから学校の様子がよくわかると感じている	地域 ----- 教育課程管理系	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 各学部の学習活動や学校行事の様子等について、各担当者が速やかにwebページ上に掲載した。掲載する写真については、個人情報に留意しながら、様子がわかりやすいものを精選した。更新情報をメール連絡網で保護者に通知し、URLを添付することにより、ダウンロードしてすぐ閲覧できるよう工夫した。 同一のPTA活動を複数回に分けて実施するなど、一度に集まるのが難しい状況においても参加できるような工夫をした。また、通知作成を早めに行い、通知を郵送及び手交する際に担任から保護者に協力を呼びかけるなどの働きかけを行った。PTA活動や役員会は保護者が参加しやすいような時間を設定した。 保護者や学園職員から聞き取りをしながら、個別の教育支援計画を作成した。保護者や学園職員のニーズが明確になった。 直接交流を1回、間接交流を3回行った。様々な要因から、十分に連絡を取り合うことが困難なこともあったが、交流相手と事前に話し合いを重ね、充実した交流になったケースもあった。
		②PTA活動を年3回実施し、参加率が70%以上である。	地域 ----- PTA	B	B	B	
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	③保護者の90%以上が「個別の教育支援計画」の内容について、関係機関と共有できる内容となっていると感じている。	笑顔 ----- 運営・対外系	A	A	A	
		④交流及び共同学習実施の意義や交流形態について、保護者や関係機関の80%以上が賛同している。	友情 ----- 運営・対外系	B	A	A	
II 地域の特別支援に関するセンタースタッフ的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言・援助に努めていますか。	⑤地域の幼保小中学校等から年間200件の要請を受けて助言・援助に当たり、担任の取組に改善が見られた割合が80%以上である。	地域 ----- 運営・対外系	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 相談を依頼してきた担任や学校のニーズをよく聞き取り、丁寧に対象児童生徒の実態を伝えるとともに、担任の考えを確認しながら支援内容を決めていく。 中部地区の特別支援コーディネーター向け研修会は、オンラインで実施し、110名の参加があった。研修会の内容も形態も、好評だった。
		⑥地域の学校等で、60分ケース会議を含む研修会を実施し、指導の参考になった教職員が80%以上いる。	地域 ----- 運営・対外系	B	B	B	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	⑦個々の児童生徒のニーズに応じた教材教具(ICT機器の活用も含む)を工夫した指導・支援ができるかと回答する教員が80%以上である。	笑顔 ----- 研修部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中でICTを活用することにより、どのように有効であったかをまとめるとともに引き続き授業場面に生かしていけるよう情報を提供していく。 各担当者や連携をとり、個人情報に留意しながら、各学部の学習活動や学校行事の様子を写真や文章等でわかりやすく、速やかに伝える。また、webページの更新情報をメール連絡網で保護者に通知し、積極的に情報発信をする。 個別の指導計画を作成するために校内研修でアセスメントから目標設定の仕方、3観点別の評価について取り上げ、教職員間で共通理解を図ることができた。 各担当者や連携をとり、個人情報に留意しながら、各学部の学習活動や学校行事の様子を写真や文章等でわかりやすく、速やかに伝える。また、webページの更新情報をメール連絡網で保護者に通知し、積極的に情報発信をする。 アセスメントを実施したことで、児童生徒の実態や学習指導要領に基づいた目標や内容を設定し、よりよい授業づくりができた。
		⑧90%以上の保護者が「個別の指導計画」について、保護者の願いや児童生徒の実態に合った目標・内容となっていると感じている。	笑顔 ----- 学習指導部	B	B	B	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑨80%以上の教員が個別の指導計画を作成するために校内研修が参考になったと感じている。	笑顔 ----- 研修部	A	A	A	
		⑩「個別の指導計画」に掲げた目標の達成率が90%以上である。	笑顔 ----- 学習指導部	A	A	A	
		⑪アセスメントに基づいて個別の指導計画の目標を設定したり、目標達成のために授業の単元や題材を設定したりして、よりよい授業づくりに努めていると回答する教員が90%以上である。	笑顔 ----- 学習指導部	A	A	A	
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑫児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、関係者の85%以上が情報共有できている	元気 ----- 保健・安全部	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> コロナ感染症拡大防止のため、家庭訪問が中止になったり、学校行事が限定的になったりしたが、書面を通して、児童生徒の健康上の配慮や対応について、情報を共有するよう努めた。

		ると感じている。					コロナ感染防止対策についても同様の対応をすることができ	の配慮や対応について学部を越えて、情報共有することも課題である。
		⑬安全点検を全職員で毎月実施し、危険箇所改善率を95%にする。	元気 保健・安全部	A	A	A	・毎月安全点検を全職員に呼び掛け、その重要性を周知した。危険箇所は随時改善され、児童生徒が安全に学習に取り組める環境が改善された。	・棟間通路の雨漏りの修繕が行われた。さらに、網戸の設置や床の腐敗など業者が関わる修繕を進め、生活環境を改善することが課題である。
	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑭心肺蘇生法の講習会やアレルギー対応を含む救急対応訓練等を年4回以上実施し、90%の教職員が対応について理解している。	元気 保健・安全部	A	A	A	・危機管理に関する保健研修を4回以上実施することができた。複数回研修を設定し、全ての教職員が研修を受ける機会を設けるよう努めた。	・心肺蘇生法やアレルギー対応など、全ての職員が熟知し迅速に対応できるようになるために、研修をさらに積み重ねることが課題である。
		⑮いじめの未然防止に向けた取組について、全ての教職員、保護者が満足している。	友情・元気 生徒指導部	A	A	A	・いじめの組織的指導の流れを全職員に共通理解を図った。 ・いじめ防止対策委員会に関係学級担任の常時出席とした。	・教職員の意識向上とともに、いじめ防止ポスターへの参加等生徒自身がいじめ防止について考える活動を強化する。
		⑯危機管理マニュアルに基づいて緊急対応訓練を年間3回以上実施している。	元気 保健・安全部	A	A	A	・緊急対応訓練を行い、緊急時の職員や児童生徒の動きを確認した。その際の課題を担当職員で話し合い、危機管理マニュアルの修正を行った。	・緊急時に危機管理マニュアル通りに職員が対応し、児童生徒の安全が確保できるよう、さらに訓練を積み重ねると共に、危機管理マニュアルの修正を継続することが課題である。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	8 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑰キャリア教育に係る授業を80%以上の教員が、年間3回以上行っている。	地域・笑顔 進路指導部	A	A	A	・キャリア教育全体計画を配布し、キャリア教育の視点に立った授業実践を呼びかけることができた。	・小学部から高等部までの一貫した進路指導を進めていくために学部間の連絡・相談や作業学習等の見学を積極的に行う。
	9 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑱学校からの進路に関する情報について、保護者の95%以上が満足している。	地域 進路指導部	A	A	A	・進路たよりをWebに掲載したことを保護者に伝えることで保護者の評価を改善した。	・進路たよりの内容をさらに充実させる。写真等を多く活用し、実際の様子がよくわかるような紙面づくりを行う。
		⑲関係支援機関や実習先、保護者との情報交換を年間3回以上実施し、その結果として保護者の90%が、関係機関等との連携が深まったと感じている。(高等部)	地域 進路指導部	A	A	A	・新型コロナの影響で保護者が直接学校での生徒の様子を参観できる機会は少なかったが、支援会議や面談等で生徒の様子を詳しく伝えるとともに、進路に対する助言や情報を伝えることができた。	・来年度の新型コロナの影響があると思われるが、少ない回数や短時間であっても内容を充実させる工夫を行う。
		⑳関係機関と連携したデュアルシステム(年間を通じて学校・関係機関を併行して行う就業体験)を実施し、対象生徒の90%に変容が見られる。(高等部)	地域・笑顔 進路指導部 高等部主事	A	A	A	・デュアルシステムでの実習をとおして生徒の変容が見られ、通常の作業や授業にも生かされた。	・デュアルシステムの内容についてさらに検討し、より充実した実習や生徒の変容を促すことができる取り組みを行う。